

Q7：英語活動において、どのように評価したらよいですか？

A： 評価は、学校ごとの英語活動の目標に即して行うようにします。したがって、評価の観点も、各校の目標に合わせて設定し、各単元・各単位時間で評価をしていきます。英語活動においては「コミュニケーションへの関心・意欲を育成する」ことが重要ですから、英語に関する知識や技能を評価することより、活動への参加の仕方や意欲・態度を中心に評価することが大切になります。また、相対評価ではなく、児童の目標への実現状況の評価することが大切です。

毎時間の授業での評価方法は、(1) 教師による評価 (2) 児童による自己評価と相互評価などがあります。

1 教師による評価

教師による評価においては、活動の中で見られた児童のよさを大いに認め広めていくと同時に、個人の変容がとらえられる補助簿のようなものを作成し、様相の記録を累積していくとよいでしょう。また、TTで指導にあたる場合には、それぞれの立場を生かしながら評価をすると効果的です。例えば、担任は、「進んで友だちに声をかけていた」、「最後まで相手の言うことを聞いて理解しようとしていた」など、活動への参加の仕方を評価します。ALTは、英語表現のよさ、発音のよさを認めて広めていくとよいでしょう。JTEや地域人材講師の先生は、「ジェスチャーなどを交えて工夫して伝えていた姿」や、「これまでに親しんだ表現を使って伝えようとしていた姿」を評価していくとよいでしょう。

2 児童による自己評価・相互評価

児童自身による評価においては、できたことを認め合えるような「振り返り」の場を終末に設定することが考えられます。自己評価を書き込めるようなワークシートを作成して記入するようしたり、その時間に見られた仲間の頑張りを口頭で紹介するようしたりしてもよいでしょう。

また、これらの評価を、指導計画の題材や活動を改善していく視点として活用していくことを大切にしていきたいものです。